



「ヒット性の打球をアウトにするのが気持ちいい」
水鳥太高・キャプテン／ショート

持つて長く野球を続けて欲しい」と話す橋田監督が選手たちの将来を考えての指導だ。
もう一つ、橋田監督の指導方針で特筆すべきことが、選手に考えさせる練習だ。練習中、選手だけでミーティングを行う姿が度々見られる。「声が出ないのはなぜか?」「試合で緊張して力を発揮できないのはなぜか?」など、チームで上手くいかないことがあれば、選手たちに課題を話し合わせる。チームとしての目標も、監督やコーチから与えられるのではなく、選手が話し合っ決めていくという。こうして選手が自主的に定

めた目標に対して「自分たちが意見を出して決めたことだから」と、より積極的に課題を克服し、目標達成のために頑張るようにすると橋田監督は話す。
チームを支える研究熱心なアスリート
選手たちが決めた「全国制覇」の目標に向け、橋田監督は基本に忠実な守り勝つチーム作りを目指している。「中学生のレベルでこれだけエラーの少ないチームは少ない」と橋田監督も自信を持つ守備の要がキャプテンの水鳥太高君だ。

【愛知の中学生リトルシニア①】

愛知豊橋リトルシニア

AICHI TOYOHASHI Little Senior

創部2年目の若いチームながら、今年の秋季大会で優勝、来春の全国選抜大会の出場を決めた愛知豊橋リトルシニア。選手たちが自ら目標を定め、課題を見つけ、考える野球でチーム全体のレベルアップで栄光を掴んだ。



橋田監督は「チーム全員に力量の差が少なく、誰が出ても変わらないくらいの力をつけてきた」とチーム力の底上げに手ごたえを感じているという

自分たちで決めた目標だから積極的に取り組める

愛知豊橋リトルシニアを率いる橋田好正監督の指導は独特だ。たとえば、守備練習ではフォームなどを細かく指導するのではなく、ノックでできる限り多くのボールを捕ることを重視する。「中学1〜2年生くらいだとまだまだ筋力もついていない子が多いので、形を作ろうと思っても上手くいかないことも多いんです。またこの年代は人生でも一番身体が成長する時期です。その時期にできるだけでなくボールを捕ることで、野球に必要な下半身の筋力が自然と鍛えられるんです」と橋田監督はその意図を明かす。ノックを数多く受けるだけでなく、冬場は走り込みを多くすることで、下半身や持久力の強化も図っている。こうした下半身の強化は単にチームを強くするだけではなく、常々「夢を



選手が自ら考え 目標を定め全国制覇に挑む

水鳥君の守備力は橋田監督も「守備範囲が広く、一番安心して見ていられる選手」と高い評価を与えている。
「打球を追う一歩目が大事なので、練習でも試合でも準備を大切にしています。キャッチャーの構えとバッターのスイングで打球の方向を予測して守備位置を変えます。二遊間や三遊間の安打性の打球をアウトにしたり、内野安打になりそうな当たりをアウトにしたりするのが楽しいです」と広い守備範囲の秘訣を話す水鳥君。自ら「憧れの選手」と話す広島・菊池涼介選手のプレーをテレビで見て守備位置や動きを練習で取り入れている。

「ベンチにいる時から相手投手のクセをよく見て走るチャンスを狙っている」という水鳥君の盗塁は、全国大会の予選でも彼の盗塁に相手のエラーも絡んで決勝点を挙げるなどチームの大きな武器になっている。
橋田監督に水鳥君のことを聞いてみると何度も「まだまだ」という言葉が返ってくるが、その言葉の裏には彼の野球に取り組む姿勢にもっと大きな可能性を感じているように思えた。